

要因 事業	(1) 事業概要	(2) 事業による環境の変化	(3) 事業を巡る社会経済情勢の変化	(4) 事業により整備された施設の維持管理状況	(5) 県民の意見
水源森林総合整備事業	<p>○事業名：水源森林総合整備事業</p> <p>○路線名及び地区名：大山地区</p> <p>○所在地：西松浦郡有田町大木</p> <p>○工期 ・当初工期：平成13年度～平成16年度 ・変更工期： //</p> <p>○総事業費 ・当初事業費 388,080千円 ・変更事業費 368,265千円</p> <p>○事業内容 ・治山ダム 9個 ・流路工 267m ・森林整備 45.3ha</p> <p>○関連する事業 ・復旧治山事業等（S43～H3）</p> <p>○背景 当地区は、有田町（旧西有田町）の国見山山麓東側斜面の山岳地帯に位置しており、中腹の丘陵地には棚田群及び棚田を維持する溜池や集落が存在している。これらの上部の森林は水源かん養林として高度機能の発揮が期待されているものの荒廃した溪流や、過密化し下層植生が乏しい保安林が見られたことから、水源かん養機能や防災機能の低下等が懸念されていた。</p>	<p>○生活環境 治山ダム、流路工を施工したことにより、溜池等への土砂の流出が抑止された。</p> <p>○自然環境 森林整備により下層植生が繁茂し、表土の流出が防止され、また、複層林への誘導を図った。</p> <p>○社会文化環境 森林整備によって地域の景観保全が図られた。</p>  <p style="text-align: center;">整備後の森林</p>	<p>近年では地球温暖化問題など環境への関心の高まりから、森林の重要性が一層認識されるようになった。 内閣府が平成19年5月に実施した「森林と生活に関する世論調査」によると「森林に期待する働き」については、「地球温暖化防止に貢献する働き」の割合（54.2%）が最も高く、平成15年度の調査と比較しても上昇割合が最も高い。次いで「災害の防止の働き」（48.5%）さらに、「水資源の確保」（43.8%）と続きその期待度は高い。</p> <p>【森林に期待する働き】</p>  <p>県では、平成16年度から10ヶ年計画で「5万haの間伐などの森林整備」と「100万本の広葉樹の植栽」を目標に健全で多様な森林づくり（こだまの森林づくり）に取り組んでいる。</p>	<p>県が実施した治山ダム等の構造物については、県で維持管理を行っており、治山施設としての機能を十分に発揮している。 また、当該地域の森林の所有形態は、私・地区有林及び県・町有林となっており、それぞれの森林所有者により管理されている。</p>  <p style="text-align: center;">(治山ダム)</p>  <p style="text-align: center;">(堆砂状況)</p>	<p>治山事業施工後、施設の機能は十分果たされており、溜池等への土砂の流れ込みも見られない。 整備後5年を経過したが、当地域において災害や水不足といった事態の発生が見られなかったことが一因にあると思われる。 森林整備に関して、地元から「良い事業をしていただいた」と好評であった。 その後、当該地域で森林整備を実施する上で模範林（モデル林）的な存在となり、森林整備の推進に役立っている。</p>
	<p>○目的 森林の水源かん養機能と防災機能を高度に発揮させるため本事業を実施した。 事業では、荒廃した溪流において、浸食の拡大や不安定な土砂の移動を防止するため、治山ダムや流路工の水土保全施設を設置するとともに、荒廃した森林の整備を併せて実施した。</p>  <p style="text-align: center;">(荒廃した溪流)</p>  <p style="text-align: center;">(整備前) (整備後)</p>	<p>(6) 事業の効果</p> <p>○事業の直接的効果 治山ダムや森林整備等の施工により、防災機能や水源かん養機能の向上が図られた。</p> <p>○事業の間接的、波及効果 森林と棚田・溜池の調和が図られ、地域の景観の保全に寄与するとともに、森林環境保全に対する意識の向上に貢献している。</p>  <p style="text-align: center;">(新緑の棚田)</p>	<p>(7) 地域住民との関わり</p> <p>治山ダム等の整備や森林の整備により、防災機能や水源かん養機能の向上が図られており、地域住民に対して安全・安心感を与えている。 また、棚田や溜池の環境保全にも役割を果たしており、地域においてイベントが開催されている。</p>  <p style="text-align: center;">森林の恩恵を受ける溜池</p>  <p style="text-align: center;">(棚田ウォーク)</p>  <p style="text-align: center;">(棚田の学校)</p>	<p>(8) 今後の課題等</p> <p>透水ダムの設置などにより、水源かん養機能の向上が図られていると考えているが、引き続き効果を確認することとしている。 また、鋼製枠の耐久性についても調査していくことが必要である。</p>  <p style="text-align: center;">(透水ダムと流路工)</p>	<p>(9) 新規箇所評価、再評価への反映、改善点等</p> <p>森林の健全な生長を促進させ、その機能を維持していくためには、今後とも適切な保育作業が必要となる。 これまでは、森林所有者において管理が行われてきたが、当地域は、棚田と一体となった森林活用や景観づくり、並びに水源かん養機能の発揮のための森林整備が必要であり、今後は、地域住民や森林ボランティア等との協働意識の向上を図り、連携・協力して管理を行っていく必要がある。</p>  <p style="text-align: center;">(事業説明板)</p>